

渋沢栄一と深川福住町邸

渋沢史料館

桑原功一

はじめに

明治 9 年(1876)に深川福住町に本邸を移転した渋沢栄一

⇒商品流通の発達した深川が倉庫地の確保や商取引相手との交渉および相談の場として重要な役割を果たす地域性をもっていたことと関連との指摘(『江東区史』中巻)

* 栄一の活動を通して深川福住町邸への移転の意味、役割を改めて考える

1 深川福住町への移転

(1) 兜町邸

明治 6 年(1873)7 月 8 日～ 東京第一大区拾五小区海運橋兜町 2 番地転

(2) 明治 9 年、深川福住町邸への移転 喜作

4 月 16 日 栄一、「湯島先生」と芝崎確次郎、深川福住町飯島喜左衛門屋敷再見分。営繕向を協議

4 月 17 日夜 清水喜助とその手代 1 名、来訪。営繕向について再調査のことあり協議(芝崎日記)

4 月 18 日 大工、再調として出張。深川福住町 飯島喜左衛門(近江屋)屋敷 購入決定

飯島喜左衛門(近江屋)⇒「宅作」/「旧地主北岡文兵衛」⇒「地所」

(渋沢家文書/芝崎日記/は、その落葉)

4 月 21 日 朝未明、転宅披露。稲荷河岸より小船 1 艘で、家財深川へ引き移す(芝崎日記)

4 月 22 日 芝崎確次郎、深川福住町邸に引っ越し(芝崎日記)

* 修繕 7,000 余円(渋沢家文書)

7 月 11 日 五番地所及建物買入 1,600 円(渋沢家文書)

7 月 17 日 栄一、移転(8 月 26 日 栄一、移転(渋沢家文書))

2. 深川福住町へ移転したときの栄一の主な活動状況

(1) 抄紙会社創立と経営の安定化

①明治新政府に出仕

明治 2 年(1869)11 月 民部省租税正

・銀行制度づくり/・租税、土地制度、殖産興業政策、郵便制度、貨幣制度、鉄道敷設など

* 明治 3 年頃 製紙業起業主唱→明治 6 年 2 月 抄紙会社創立

②抄紙会社創立と深川

明治 6 年(1873)2 月 抄紙会社創立 → のさ王子製紙

明治 7 年(1874)1 月 31 日～ 抄紙会社より渋沢栄一、事務委任(頭取代)

・破布(ボロ)買入を古河市兵衛・三野村利助に指示

(三井組蔵を利用)

明治 7 年(1874)5 月 9 日 三井組蔵梅五番に小野又次郎の破布 162 俵輸送

(『創立記事』壹 公益財団法人紙の博物館所蔵)

(浅草御蔵利用) 明治7年6～10月

明治7年(1874)6月23日 抄紙会社と三井組、浅草御蔵借受約定取り結ぶ(『創立記事』壹)

明治7年(1874)10月9日 抄紙会社、浅草御蔵三井組出張所より同所の倉庫が官に引き上げになった旨の回章を受ける(『創立記事』壹)

(深川の蔵を利用) 明治7年11月～

明治7年(1874)11月29日 深川へ蔵式を送る(『創立記事』壹)

明治8年(1875)6月4日 「深川破布蔵」の存在確認

(『抄紙会社記事』第二 公益財団法人紙の博物館所蔵)

明治8年(1875)6月10日 鈴木氏深川清住町10番地倉庫見分(『抄紙会社記事』第二)

●三井組蔵→浅草御蔵(三井組出張所)→深川の蔵

★抄紙会社にとって深川は製紙原料(破布)などの集積地

③王子村(現・北区王子)に工場設置

明治7年(1874)9月 抄紙会社工場を王子村(飛鳥山の麓)に建設決定

…設置条件の一つ:舟運の便(輸送の便)

明治8年(1875)6月 抄紙会社工場竣工

8月 抄紙会社本社を王子工場地に設置

12月 抄紙会社御開業式

*経営基盤安定、発展をめざす

明治9年(1876)8月 政府より地券用紙受注⇒経営安定化のめど

★王子の本社・工場と深川(倉庫)…荒川(現・隅田川)と石神井川でつながる

(2) 第一国立銀行創立と経営の安定化

明治6年(1873)6月11日 第一国立銀行創立総会

同年 7月1日 第一国立銀行総監役就任(予定)

【史料】(第九条)

渋沢氏ハ右職務勤仕中、銀行最寄ニ来住シ、銀行ヲ以テ我居宅ト心得銀行事務取扱時限外ノ事マテモ、其取締向万端ノ事ニ配意スヘシ。(「東京第一国立銀行と渋沢栄一との契約書」『第一銀行五十年史稿』)

7月8日 東京第一大区拾五小区海運橋兜町2番地へ移転

明治7年(1874)11月 第一国立銀行大株主の小野組破綻

12月～ 三井組による第一国立銀行経営権掌握の動き

↓↑

明治8年(1875)8月1日 栄一、第一国立銀行頭取就任

*貸付金方法の厳正化(担保品付貸付中心へ)

明治9年3月5日 大蔵省より第一国立銀行に出納事務停止、同省官金即座完納の達に対し、栄一、紙幣頭・得能良介にその完納猶予願書を提出。⇒完納期限猶予の約をとる

明治9年(1876)7月16日 株主総会において、経営方針変更

*民間取引に傾注等、発展をめざす

明治9年8月1日 「改正国立銀行条例」布告

同年8月 第一国立銀行、宮城県、岩手県に出張所設置。米穀荷為替取扱営業を政府より許可

★明治9年 第一国立銀行の経営基盤の安定化と東北方面への出張所展開

3. 深川福住町邸に本邸を置いた時代～事業の多角化～

(1) 銀行経営展開と近代倉庫制度創設の主張

明治8年・9年～: 第一国立銀行: 担保品貸付、民間取引傾注の方向

明治9年 栄一、蔵貸業始める。深川福住町邸の蔵を従兄・渋沢喜作(渋沢商店)に貸出

明治 10 年(1877) 銀行同盟拓善会→大蔵省へ 近代倉庫制度創設を願う

銀行同盟拓善会において渋沢栄一が中心となって議論

- ・生産を盛んにするためにその輸送の便をはかる必要
- ・ヨーロッパ各国の貸倉方法を参考に、政府が全国各地に貸倉を設置し米穀などの物品保管、売買などの便をはかり、倉庫証券を発行する必要

明治 15 年(1882) 渋沢栄一、「倉庫会社」を創立（本店は深川、支店は横浜）

（姉妹会社で金融機関「均融会社」（本店は深川、支店は横浜）も創立）

- ・第一国立銀行に倉庫がなく、担保米を取引相手の倉庫に預けて横流しにあう
→銀行経営上、倉庫の必要性を痛感

(2) 海運業

明治 10 年代前半 岩崎弥太郎の郵便汽船三菱会社が日本の近海航路を独占

→運賃率設定も左右、商人たちから不満

→三菱のライバルとなる海運会社創立計画を三井物産の益田孝に説く

益田は新潟の鍵富三、桑名の諸戸清六、越中伏木の藤井能三ら、また北海道の豪商らを説き、参画。

明治 14 年(1881) 1 月 東京風帆船会社開業

…従兄・渋沢喜作と益田孝が発起人惣代となって、桑名、新潟、石巻、小樽などの船持ちたちが参画

…深川商人たちが加わった東京商人を中心に、各地方の船持ちの有力商人たちが連合した海運会社（『江東区史』中巻）

明治 16(1883)年 1 月 1 日

…三菱と対抗できる一大汽船会社設立を目指し、東京風帆船会社、北海道運輸会社、越中風帆船会社は、共同運輸会社に正式に合併、開業

★栄一、三菱に対抗する三井、深川米穀商、肥料商はじめ各地方の廻船問屋などの結束を基盤とした共同運輸会社を積極的に支援

⇒明治 18 年 10 月 共同運輸会社、郵便汽船三菱会社合併し、日本郵船会社誕生

●明治 18 年(1885)～明治 19 年(1887)頃の渋沢栄一の物流構想

東京深川を物流拠点に全国倉庫網整備、東京築港化（深川地先を埋立、河港化）、海運業などを総合的に考えながら全国物流構想を描く。

●近代倉庫業の挫折—明治 19 年(1886)「倉庫会社」解散—

- ・船荷証券を回収せず、委託先の問屋から現物を引き渡すような投機性の強い信用取引慣行のうえで運営
- ・江戸時代的労働慣行の残存。会社が倉庫保管業務や貨物搬入出を地域で既得権をもった人々へ委託せざるをえず、貨物の直接管理がうまくできず、信用不安を招きやすい

4. 深川福住町邸（本邸）と別邸、施設

(1) 飛鳥山別邸

明治 12 年（1879） 飛鳥山別邸の設置

- ・接客・接待の場
- ・製紙会社本社、工場

(2) 渋沢家洲崎養魚場

明治 18 年（1885） 深川洲崎（現・東京都江東区東陽）の故桜田親義（宇和島藩出身の外交官）の養魚場を譲り受け、渋沢家洲崎養魚場を設置

- ・接客・接待の場としての機能整備

【史料】

(前略) 此ノ地東京湾ニ面シ風景甚タ佳、先生時ニ客ヲ招キ或ハ家族ト共ニ遊フ (後略)
(『青淵先生六十年史』第2巻 (竜門社編、明治33年2月刊))

明治21年(1888) 渋沢家洲崎養魚場前 海辺埋立、根津遊郭が移ってくる。

・風景が失われ、接客・接待の場としての機能低下

明治23年8月 渋沢家洲崎養魚場の経営規則が整備

明治30年6月 資本金六万円で洲崎養魚株式会社を設立

【史料】

八月廿日 晴 八十八度

(前略) 九時出勤、今日午後三時ヨリ白耳義国オリエンタルコムパニー東洋支配人フランキー氏及同国公使ダヌタン等ヲ被招、内田・阪谷^(新字)阪谷瓜生其他相伴トシテ被招、兜町ヨリ舟ニテ洲崎養魚場ニ至リ垂釣、次ニ養魚会社散策、七時ヨリ深川ニテ日本風夕食、余興ハ三曲也、予等モ舟ニ從行、次テ深川ニモ至リ世話ヲナシ十時帰ル (後略) (『八十島親徳』日録 明治三四年)

5. 深川福住町邸の役割変化～兜町邸への本邸移転～

(1) 兜町邸に本邸移転

明治21年(1888)12月6日 兜町邸に本邸移転

* 深川福住町邸維持・存続

・明治22年(1889)11月 深川区会議員当選、議長に選挙 (～明治37年10月24日)
→のちには深川区学務委員

・明治23年(1890)7月1日 第1回衆議院議員選挙
…深川区民ら、栄一を第五区 (本所区・深川区) 議員候補者に推す

・明治35年12月9日 深川区教育会会長 (～明治37年10月)

明治24年頃 離れ増改築 (四代目清水満之助 技師長岡本鑿太郎)

【史料】

(前略) 明治二十一年十二月先生関係事業益々多キヲ以テ、事務ノ便宜ヲ計リ事務所ヲ日本橋兜町ニ置ク、先生多クハ兜町ノ事務所ニ居ル。招客或ハ保養ノ為メ時々深川及王子ノ邸ニ到リ数泊ス (後略)

(『青淵先生六十年史』第2巻 (竜門社編、明治33年6月再版刊))

(2) 澁澤倉庫部の設立と深川福住町邸移転

明治30年(1887)3月30日 澁澤倉庫部、渋沢邸 (深川福住町5番地) に創立。

栄一の設立意図：渋沢家の利益のみを主とせず、「第一銀行ノ競争ノ側」に立つのではなく、実質的に「第一銀行ノ機関タルヘキ主意」(『八十島親徳』日録)

明治38年 三田綱町・仁礼景範邸の敷地購入

明治38年5月1日 篤二、八十島、尾高、松平隼太郎、「倉庫部将来ノ新築及業務発展ノ一般計画」などを協議 (『八十島親徳』日録)

明治38年6月2日 小山町仮宅へ引越開始 (『八十島親徳』日録)

明治41年9月27日 三田綱町邸宅落成式

明治42年(1909) 澁澤倉庫部、株式会社組織となり、澁澤倉庫株式会社となる。

東京市日本橋区南茅場町、京橋区霊岸島町に出張所設置

むすびにかえて